

は～とふる 日光



家の事は、二人で行うのが当然!

Q：相手の大切なものを理解し受け入れていますか？

▶ 崇弘さん

アイスホッケー観戦が好きなので、妻を誘って一緒に見に行ったら彼女の方がはまっているようです。選手のブログも欠かさずチェックしているようです。

妻が喜んで応援していることが嬉しいです。

▶ ゆかさん

夫は消防団や青年会議所などの集まりや付き合いが多く、あまり家にいないのですが、それも大切なことだと理解しています。自分の父も、仕事や付合いで夜遅くまで頑張る人だったので。

* 市内大谷向町で父親とともに鉄工所を営んでいる石岡さん夫妻を訪ねました。仕事だけでなく、消防団、青年会議所と、地域活動にも忙しい中、5歳の双子の息子さんたちとの遊びも欠かさない崇弘さんと、優しい笑顔のゆかさん夫妻です。*

● 子育てについて

▶ 崇弘さん

自分は子どもに対して甘い親になるだろう、と思っていましたが、それ以上に妻が優しい親になったので、「厳しくしなくては」と考えますね。我が家では、父親の威厳と母親のぬくもりが、丁度いいバランスだと思います。

Q：何か問題がおきた時の対処法は？

▶ 2人

話し合いをしっかりとすることが大切です。

▶ 崇弘さん

例えば、子どもをしかるときは、両親が同じ意見でものを言うようにしています。また、妻が自分と違う意見のときには、その意見も尊重し理解するようにしています。

● 男女共同参画について

▶ 崇弘さん

私の育った家では、家事を両親が二人で協力しあって行うことが当然だったので、あまり違和感はないです。風呂掃除など、自分が出来る時はするようにしています。（妻にしてみらうと申し訳ないような気がします。）



取材を終えて

取材中、話の内容を確認するようお互いを笑顔で見つめあうお二人を拝見していると、「今の時代に最も必要なのは家族の絆なんだな」と思う一日でした。





子どもっておもしろい



～お母さん、もっと、
肩の力を抜きましょう～



演題
肩の力を抜いた子

男女共同参画社会づくりのための テーマの一つに、「子育て」があります。

日光市においても、昨年3月に策定された「男女共同参画プラン日光」の中で、「安心して子育てができる環境づくり」を掲げ、現在取り組んでいるところです。

しかし、一方で、親自身が育児に対しての不安を抱え、子どもにどう接したら良いのかなど、悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。

今回は、昨年、10月21日(火) 藤原総合文化会館において開催されました、保育施設「りんごの木子どもクラブ」代表、柴田愛子さんの講演会に参加しました。

※参加者はほとんどが女性でしたが、お孫さんを見ているおじいちゃん、ボランティアで子どもを見ている男性もいました。

「目からウロコ! もっと早く聞きたかった!」 そんな思いを伝えたくて、お話のほんの一部を紹介します。

どうして 保育施設を 設立したの ?

幼稚園の先生になった頃、「正しい幼児教育」をすれば、健やかにこどもが育つと信じ、奔走しました。「いい保育ってなんだろう?」と考えれば考えるほど、答えを見つけることができませんでした。保育という仕事を離れた時期もありましたが、25年前、「子どもの気持ちに寄り添った保育」を目指し、保育施設「りんごの木」を創設しました。すると、「子どもっておもしろい」という気持ちが、どんどんよみがえってきました。

子育て中のあなたに… こんな時、どうしますか?

☆子どもが転んだ時…

「だからいったでしょ! はやく立ちなさい! 痛くない! がまんしなさい。」と、子どもに言っていませんか?

でも、子どもは…

痛いのです。
「痛かったね」って気持ちをわかってくれれば、痛さも軽くなります。

☆食事がなかなか終わらない時…

「早く食べなさい。」と、自分の気持ちを子どもにぶつけていませんか?

でも、子どもは…

早くできないのです。
何度言っても出来ない時は、諦めましょう。おいしそうに食べているかどうかを見逃します。

柴田愛子流 “子育ての基本・大切なこと”



○子どもの心に寄り添ってみよう!

親は、子どもが何を感じているのか、共に感じるように努力することがポイント!

○子どもは自ら育つ力を持っている!

親は、うしろから見守っていくことがポイント!

☆男・女・老人・子ども・地域があっこそ健康に育つ!

お母さんひとりだけが子育てするわけじゃない。お父さんはもちろんのこと、おじいちゃん、おばあちゃん、地域の方、たくさんの方の手によって子育てはしていくもの!



講演後、柴田愛子さんに、日常生活の中での疑問などを聞いてみました。

愛子さんへの 独占インタビュー

Q1 おじいちゃん、おばあちゃんが夕食前にお菓子を与えてしまいます。どうしたらよいのでしょうか？

A1：いい関係があれば、「夕食の後に食べようね。」と言えればいい。でも言えないなら「ありがとう。」と一緒に食べればいい。おじいちゃん、おばあちゃんがお菓子などを与えるのは、愛情表現なのです。孫の笑顔を自分でつくれることがうれしいのです。気持ちよくいただきましょう。毎日でなければ、そんなに心配しなくても大丈夫です。

Q2 年子の兄弟です。お兄ちゃんから、「怒る時も、褒める時も弟と違う」と言われてしまいます。どう答えたらいいのでしょうか？

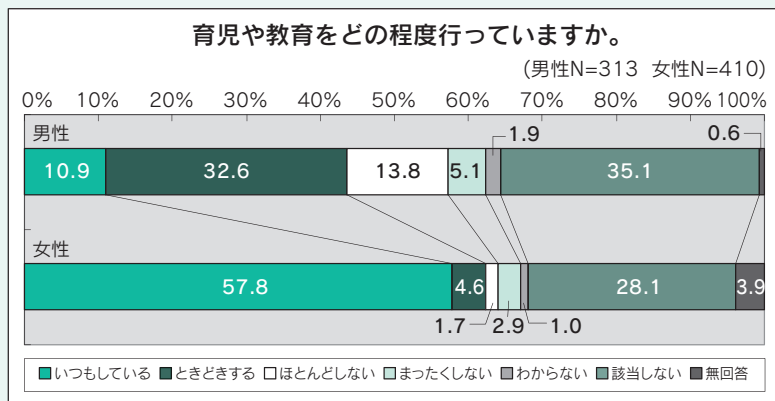
A2：同じ質の愛情を同じ量だけ、複数の子に与えるのは難しいです。だからお兄ちゃんに、「恥ずかしいけど、そうなっちゃうのよ、ごめんね。あなたを産んで初めてお母さんになったでしょ、だからあなたの時は何でも初めてで、わからない事も多いのよ。あなたにはつらいこともあるかもしれないね。」と言っていいのではないのでしょうか。

Q3 夫婦で子育ての考え方がかなり違います。どうしたらいいのでしょうか？

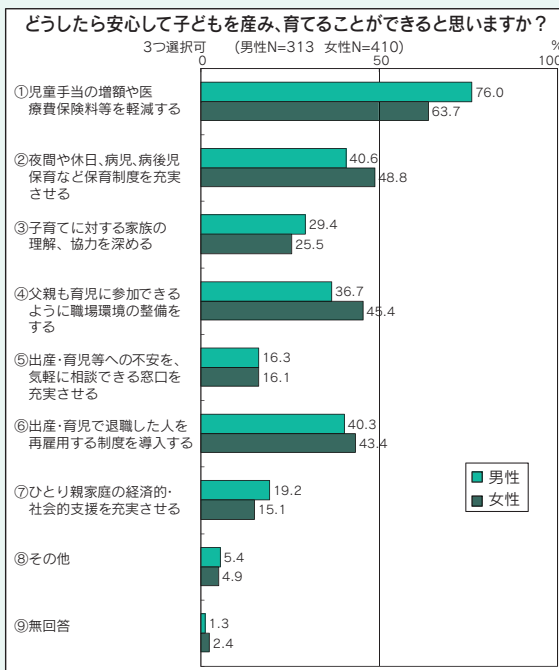
A3：夫婦で考え方が違って当たり前です。生まれも育ちも違う二人が、一緒に生活し子育てをしているのですから、価値観の違いでぶつかることもあるでしょう。ただ、そうした中で、お互いの心に少しでも寄り添うことができれば、子育ても変わってくると思います。必要なことは、親はどんなことがあろうと、子どもを見捨てない覚悟を持つことだと思います。

「男は仕事、女は家庭」とあるように、「育児は母親がするもの」という意識がまだまだ根強い今日、市民意識アンケート(H18)でも、「育児や教育をどの程度やっているか」の問いに、「いつもしている」という男性は10.9%、それに対し、女性は57.8%という結果でした。(下図のとおり)

お母さんがひとりで育児を抱え込まないで、柔軟に考えられるよう、もっと「ゆとり」が必要です。そのためにも、家族の育児参加、特にお父さんの役割は重要です。お母さんも「育児はお父さんといっしょに、家族といっしょに、地域とともに」と考え、肩の力を抜いてみてはいかがでしょうか？



(H18.男女共同参画市民意識アンケートより)



(H18.男女共同参画市民意識アンケートより)

時代のキーワード ワーク・ライフ・バランス



「仕事と生活の調和」のこと。誰もが、仕事や家庭生活・地域活動・個人の自己啓発など、様々な活動を自分の希望するバランスで実現できる状態のことです。

ワーク・ライフ・バランスを推進することにより、①仕事に就くことによる経済的自立が可能な社会②心身ともに健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会③様々な働き方・生き方が選択できる社会、を目指します。

☆「はーとふる日光」へのご意見・ご感想をお待ちしております。

コミュニケーションは 笑顔とジェスチャーで!!



35年ほど前、足尾地域に移り住んだ諸星辰男さんと喜代栄さん。聴覚の不自由なお二人ですが、明るく、楽しくお店（理髪店）を切り盛りしています。

辰男さんがお客さんの髪をカットすると、喜代栄さんがささず顔そりを行います。絶妙なタイミングで仕事をこなしていくお二人に、カットされているお客さんも思わずにっこり…。そして身振り、手振りでお二人と会話を楽しんでいました。

結婚してよかったと思うことは何ですか？

辰男 さん：たくさん仕事をする、喜んでくれる妻が隣にいる。それがうれしい!!

喜代栄さん：毎日二人で仕事が出来ること。大変だけど、とても幸せです。

お二人は、家事をどう協力し合ってますか？

辰男 さん：男はやらない!

喜代栄さん：私が疲れているときには、協力して欲しい!!

今までに、何か困ったことはありましたか？

子育て中は他の保護者とのコミュニケーション。今も、近所の人たちともっと話ができればなあ、と思う。

お二人にとって家族とは何ですか？

安心して暖かくて大切なものです。

「最近は男性も料理や洗濯、掃除などもしますよ」と言う辰男さんはタジタジでした。



お二人は、週に一度地域の病院に出向き、入院患者さんやその家族の方のカットを行っています。地域の人たちと積極的に交流を持っているお二人に、温かい気持ちを抱きました。優しい眼差しや気持ちは、言葉以上に伝わるのだ、と改めて感じました。

※この取材にあたり、辰男さん・喜代栄さんと交流しながら手話を覚えた清水りさんに、手話通訳のご協力をいただきました。

市からの インフォメーション

平成20年栃木県次世代人材づくり事業 とちぎ未来へのパスポート2008 に参加しました。

平成20年10月9日～15日まで、5泊7日
でアメリカ合衆国（インディアナ州、シカゴ市）への海外研修に日光市から1名参加しました。

この研修は、国際的視野を持ち、人間性が豊かで、地域において活躍する青年リーダー・女性リーダーの育成を目指した研修です。

参加した五十嵐至子みちこさんに感想と今後の抱負をお聞きました。



ホストファミリーとの1枚
(中央が五十嵐さん)

自分の小ささに打ちのめされたひと時

栃木県次世代人材づくり事業に参加させていただきました。

訪問先の、『働く母親のためのベスト10』で全米第一位に輝いた製薬会社イーライリリーでは、フレックスタイム制・ジョブシェアリング・在宅勤務などを取り入れた柔軟な雇用体系に驚かされ、女性実業家協会では、起業するためのノウハウを熱く語る方たちに圧倒されました。また、ローガンスポーツ記念病院では、レントゲンを撮影するとすぐにCDに焼き付けて患者に渡すなど、進んだ医療に感動しました。

アメリカの広大な大地と誰でも受け入れてくれるような広い心、ホストファミリーの温かいもてなし、身体も心も小さい自分に打ちのめされ、視野を広げることの必要性と、人と人とのつながりの大切さを実感したひと時でした。

Information

〔取材・編集〕川口俊成 関 純子 阿部文子 石川正美 石原浩一 小林久子
小日向智 斎藤恵子 鈴木 恵 沼尾透子 星ゆき子

企画部男女共同参画課は、4月から「健康福祉部 人権・男女共同参画課」に変わります。